

研修機関情報 法人情報

- 法人名・住所
生活協同組合ユーコープ
神奈川県横浜市中区桜木町 1 - 1 - 8
- 代表者名
代表理事理事長 當具 伸一

研修機関情報

- 事業所名称・住所等
生活協同組合ユーコープ 福祉事業部
神奈川県横浜市青葉区荏田西 2 - 1 4 - 3 ハーモス荏田 2 階
- 理念
誰もが地域で安心して暮らしていけるために、組合員と職員で学びあい、助け合ってネットワークを広げながら、健康・生きがい・生活の基盤作りを支援します。
- 研修施設、設備
 - ①コープケアサポートセンター港北 会議室
(横浜市港北区新横浜 3 - 1 3 - 6 - 6 階)
 - ②ウィリング横浜 (横浜市港南区上大岡西 1 - 6 - 1)

研修事業情報 研修の概要

- 対象
 - ・全日程(訪問介護同行訪問実習含む)に参加できる方
 - ・心身ともに健康な 18 歳以上の方
 - ・介護事業(特に訪問介護事業)に従事することを希望する方
 - ・研修の約束事を守って修了する意志のある方
- 研修のスケジュール(期間、日程、時間数)

期間：約 3 か月間

標準日程：下記の通り

時間数：通学(講義+実技演習+実習) 106.0 時間
+ 自宅学習 24.0 時間 = 130.0 時間

開講式(オリエンテーション)+ガイダンス+修了評価試験+修了式=4.0 時間
合計 134.0 時間

1 通学日程表

日程	時間	時間数	科目番号/項目番号/項目名
第1日目	9:30~10:30	(1)	開講式(オリエンテーション)
	10:35~11:35 11:40~12:40	2	1①多様なサービスの理解
	13:25~14:25 14:30~15:30 15:35~16:35 16:40~17:40	4	1②介護職の仕事内容や働く現場の理解
第2日目	9:30~10:30 10:35~11:35 11:40~12:40 13:25~14:25 14:30~15:30 15:35~16:35	6	2①人権と尊厳を支える介護
第3日目	9:30~10:30 10:35~11:35 11:40~12:40	3	2②自立に向けた介護

	13:25～14:25 14:30～15:30	2	3③介護における安全の確保とリスクマネジメント
	15:35～16:35	1	3④介護職の安全
第4日目	9:30～10:30 10:35～11:35 11:40～12:40	3	5①介護におけるコミュニケーション
	13:25～14:25 14:30～15:30 15:35～16:35	3	5②介護におけるチームのコミュニケーション
第5日目	9:30～10:30 10:35～11:35 11:40～12:40	3	4②医療との連携とリハビリテーション
	13:25～14:25	1	7①認知症を取り巻く状況
	14:30～15:30 15:35～16:35	2	7②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理
第6日目	9:30～10:30 10:35～11:35	2	7③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活
	11:40～12:40	1	7④家族への支援
	13:30～14:30 14:35～15:35 15:40～16:40	3	9⑫死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護
第7日目	9:30～10:30 10:35～11:35 11:40～12:40	3	6①老化に伴うこころとからだの変化と日常
	13:20～14:20	1	8①障害の基礎的理解
	14:25～14:55	0. 5	8③家族の心理、かわり支援の理解
	15:00～16:00 16:05～16:35	1. 5	9⑤快適な居住環境整備と介護
	16:40～17:40	(1)	技術演習・実習(訪問介護)オリエンテーション
第8日目	9:30～10:30 10:35～11:35 11:40～12:40	3	9①介護の基本的な考え方
	13:25～14:25 14:30～15:30 15:35～16:35	3	9④生活と家事
第9日目	9:30～10:30 10:35～11:35 11:40～12:40 13:25～14:25 14:30～15:30 15:35～16:35	6	9⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
第10日目	9:30～10:30 10:35～11:35 11:40～12:40 13:25～14:25 14:30～15:30 15:35～16:35	6	9⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
第11日目	9:30～10:30 10:35～11:35 11:40～12:40 13:25～14:25 14:30～15:30 15:35～16:35	6	9⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
第12日目	9:30～10:30 10:35～11:35 11:40～12:40 13:25～14:25 14:30～15:30 15:35～16:35	6	9⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

第13日目	9:30～10:30 10:35～11:35 11:40～12:40 13:25～14:25 14:30～15:30 15:35～16:35	6	9⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
第14日目	9:30～10:30 10:35～11:35 11:40～12:40 13:25～14:25	4	9⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
	14:30～15:30 15:35～16:35	2	9⑬介護過程の基礎的理解
第15日目	9:30～10:30 10:35～11:35 11:40～12:40 13:25～14:25 14:30～15:30 15:35～16:35	6	9⑭総合生活支援技術演習(1)
第16日目	9:30～10:30 10:35～11:35 11:40～12:40 13:25～14:25 14:30～15:30 15:35～16:35	6	9⑭総合生活支援技術演習(2)
第17日目	1日～2日	6	実習(訪問介護)
第18日目	9:30～11:00	1.5	10②就業への備えと研修修了後における継続的な研修(1)
第19日目	9:30～10:30 10:35～11:05	1.5	10②就業への備えと研修修了後における継続的な研修(2)
	11:10～12:10	1	10①振り返り
	12:15～13:15	(1)	修了評価筆記試験
	14:00～15:00	(1)	修了式

2 通信添削課題

提出回	科目番号/項目番号/項目名	提出期限
第1回	3①介護職の役割、専門性と多職種との連携	通学第3日目
	3②介護職の職業倫理	
第2回	4①介護保険制度	通学第4日目
	4③障害者福祉制度およびその他制度	
第3回	6②高齢者と健康	通学第6日目
	8②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	
	8③家族の心理、かかり支援の理解	
	9⑤快適な居住環境整備と介護	
第4回 (最終回)	9①介護の基本的な考え方	通学第8日目
	9②介護に関するところのしくみの基礎的理解	
	9③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
最終締切日		通学第14日目

●定員（集合研修）と指導者数

定員 40 名、指導者数 12 人

●研修受講までの流れ（募集、申し込み）

- ・一般公募します。
- ・開講日の約 2 か月前より募集を開始し、当法人ホームページや情報誌等に掲載、おうち CO-OP・コープ店舗に受講案内の配布と掲示を行います。
- ・受講希望者に受講案内(学則含む)と申込書を送付します。
- ・申込書の提出(郵送可)により手続きをします。
- ・応募者多数の場合は抽選を行います。
- ・本人確認は研修初日のオリエンテーションにて、公的証明書等の原本確認を行い、複写を提出していただきます。

●費用

49,980 円（税込価格 54,978 円）

（内訳）

- ・受講料 44,980 円（税込価格 49,478 円）
- ・テキスト代 5,000 円（税込価格 5,500 円）

◎ユーコープ就業補助金制度があります。

※研修の終了後、コープケアサポートセンターに正式採用され、勤務されている方を対象としています。

●留意事項、特徴、受講者へのメッセージ

（留意事項）

退講処分取り扱いについて、下記のいずれかに該当した場合に行います。

- ・学習意欲が著しく欠け、修了の見込みが無いと認められる場合
- ・研修の秩序を乱し、他の受講者の授業を妨げる行為や言動が認められる場合
- ・遅刻・早退を繰り返していて、改善が見られない場合
- ・事務局の指示に従わない場合

（特徴・メッセージ）

介護職への従事を希望する方向けの、介護技術取得のための集合研修で、研修期間は約 3 か月（134 時間）です。現場経験豊かな講師陣が、座学・技術演習の指導を行います。実技演習では、介護する側される側ともに身体の負担が少ないベッドや車いすなどの移動・移乗の方法や、介護を受ける方の気持ちを理解できる食事や入浴、排泄介助などを行います。さらにホームヘルプサービスの現地体験、介護職従事者のスキルアップ研修の見学など、ユーコープならではのバラエティに富むプログラムです。

課程責任者

●課程編成責任者名

岸 睦雄

研修カリキュラム

●科目別シラバス

●科目別担当教官名

●科目別特徴

演習（実技内容・備品、指導体制）

科目別シラバス・科目別担当教官名・科目別特徴は下記の通り

1 職務の理解（6 時間）					
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法			
①多様なサービスの理解	2 時間	《講義内容》 ・研修課程全体の構成と各研修科目相互の関連性の全体像を予めイメージできるようにします。 ・学習内容を体系的に整理し、知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を行います。 ・介護職が働く現場の介護保険サービスと介護保険外サービスを理解します。			
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	4 時間	《講義内容》 ・介護職が働く現場や仕事内容を理解します。 ・視聴覚教材等を活用し、居宅や施設の実際のサービス提供現場を具体的にイメージします。 ・ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れを理解します。 ・チームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携を理解します。 《演習内容》 ・自身が住む地域のサービス提供事業所や特定施設、介護保険施設等の実際のサービス提供現場を調べておき、それを踏まえて5名×8グループで、サービス提供の実際や社会資源の活用などについて、グループ討議を行います。			
合計	6				
2 介護における尊厳の保持・自立支援（9 時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①人権と尊厳を支える介護	6 時間	6 時間	0 時間	—	《講義内容》 ・利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考え、尊厳という概念を理解します。 ・虐待を受けている高齢者への対応方法について学習し、高齢者虐待に対する理解を深めます。 ・介護分野における I C F を理解します。 ・QOL の考え方、ノーマライゼーションの考え方を理解します。 ・個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業などの個人の権利を守る制度について学習します。 《演習内容》 ・5 名×8 グループになり、次の事例に基づく討議を行います。【事例：介護における I C F、介護職に求められるもの、ノーマライゼーションを実現するには】
②自立に向けた介護	3 時間	3 時間	0 時間	—	《講義内容》 ・利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援や介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念を理解します。 ・利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアを理解します。 《演習内容》 ・5 名×8 グループになり、次の事例に基づく討議を行います。【事例：残存能力の活用、介護予防は寝たきり予防】
合計	9	9	0		

3 介護の基本（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	0時間	2時間	3①1～ 3①5 記述 問題 1	《添削課題出題ポイント》 ・介護環境の特徴（施設と在宅との違い、地域包括ケアの方向性など）を学びます。 ・家族による介護と専門職による介護の違いを理解します。 ・介護の異なる専門性を持つ多職種を理解するとともに、それらとの連携を理解します。
②介護職の職業倫理	1時間	0時間	1時間	3②6～ 3②8	《添削課題出題ポイント》 ・介護職の職業倫理の実用性を理解するとともに、介護職が利用者や家族等との関わる際の留意点も理解します。 ・介護職としての社会的責任を理解します。 ・プライバシーの保護や尊重について学習します。
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2時間	2時間	0時間	—	《講義内容》 ・生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクについて学習します。
④介護職の安全	1時間	1時間	0時間	—	《講義内容》 ・介護職に起こりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方について学習します。 《演習内容》 ・5名×8グループになり、次の事例に基づく討議を行います。【事例：介護職に起こりやすい健康障害】
合計	6	3	3		
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）					
項目名	時間 数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護保険制度	3時間	0時間	3時間	4①1～ 4①6 記述 問題 1	《添削課題出題ポイント》 ・介護保険制度創設の背景および目的、動向を理解します。 ・介護保険制度の仕組みや制度を支える財源、組織や団体の機能と役割を理解します。 ・介護保険制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに、制度の財政について学びます。
②医療との連携とリハビリテーション	3時間	3時間	0時間	—	《講義内容》 ・医行為の考え方、とりわけ一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為等について学習します。 ・施設における看護と介護の役割や連携を理解します。 ・リハビリテーションの理念を理解します。 《演習内容》 ・5名×8グループになり、事例検討を行い発表し学習を深めます。【50代男性一人暮らし2型糖尿病で軽度知的障害の方の事例を使ってチームケアについて検討】
② 障害福祉制および その他制度	3時間	0時間	3時間	4③7～ 4③13	《添削課題出題ポイント》 ・障害者福祉制度の理念を理解します。 ・障害者自立支援制度の仕組みを理解します。 ・個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業などの個人の権利を守る制度の概要について学習します。
合計	9	3	6		

5 介護におけるコミュニケーション技術（6 時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護における コミュニケーション	3 時間	3 時間	0 時間	—	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について学習します。 ・共感、受容、傾聴的態度、気づき等の基本的なコミュニケーションについて学習します。 ・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由を理解するとともに、相手の心身機能に合わせた配慮の必要性も理解します。 ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を理解します。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2名1組になり、次の事例に基づくロールプレイを行います。 <p>【事例：傾聴、共感、視覚障害、聴覚障害、失語症、構音障害、認知症】</p>
②介護におけるチームの コミュニケーション	3 時間	3 時間	0 時間	—	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録における情報の共有化の必要性を理解します。 ・報告、連絡、相談の留意点を理解します。 ・コミュニケーションを促す環境づくりの重要性を理解します。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の事例に基づき具体的な記録方法を行います。 <p>【事例：①「よりよい介護サービスの提供」という目的のための記録の書き方、②「事実」を記録に書く方法】</p>
合計	6	6	0		
6 老化の理解（6 時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①老化に伴うことと からだの変化と日常	3 時間	3 時間	0 時間	—	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加齢や老化に伴う生理的な変化や特徴を理解します。 ・社会面、身体面、精神面、知的能力面等の変化に着目した心理的特徴を理解します。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2名1組になり、高齢者・障害者疑似体験グッズを用いてこととからだの変化の学習を行います。
②高齢者と健康	3 時間	0 時間	3 時間	6②1～ 6②6 記述 問題 ①	<p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に多くみられる症状や訴えがどのような疾病から起こるかなど、その特徴について理解します。 ・高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について理解します。
合計	6	3	3		

7 認知症の理解(6 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①認知症を取り巻く状況	1 時間	1 時間	0 時間	—	《講義内容》 ・ 認知症ケアの理念を理解します。 ・ できることに着目した認知症ケアの視点について学習します。
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2 時間	2 時間	0 時間	—	《講義内容》 ・ 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理について学習します。
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2 時間	2 時間	0 時間	—	《講義内容》 ・ 認知症の人の生活障害、心理や行動の特徴を理解します。 ・ 認知症の利用者への対応について学習します。 《演習内容》 ・ 2 名 1 組になり、認知症の利用者との具体的な関かかわり方（良いかかわり方、悪いかかわり方）や対応方法のロールプレイを行います。
④家族への支援	1 時間	1 時間	0 時間	—	《講義内容》 ・ 認知症の受容過程での援助や介護負担の軽減（レスパイトケア）について学習します。
合計	6	6	0		
8 障害の理解 (3 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①障害の基礎的理解	1 時間	1 時間	0 時間	—	《講義内容》 ・ 障害の概念と I C F について学習します。 ・ 障害者福祉の基本理念を理解します。 《演習内容》 ・ 5 名×8 グループになり、障害者福祉の基本理念（ノーマライゼーション、リハビリテーション、インテグレーション）について討議し発表します。
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1 時間	0 時間	1 時間	8②1～ 8②4	《添削課題出題ポイント》 ・ 身体障害、知的障害、精神障害、その他の心身の機能障害について学習します。 ・ 障害の原因となる主な疾患を理解します。 ・ 障害のある人の生活を理解し、介護上の留意点について学びます。
③家族の心理、かかわり支援の理解	1 時間	0.5 時間	0.5 時間	8③5 記述 問題 ①	《講義内容》 ・ 家族への障害の理解や障害の受容支援、介護負担の軽減について学習します。 《添削課題出題ポイント》 ・ 家族支援は家族介護の肩代わり支援だけではないことを学びます。 ・ 日本に求められるレスパイトサービスの課題を学びます。
合計	3	1.5	1.5		

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）						
基本知識の学習	項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	①介護の基本的な考え方	4 時間	3 時間	1 時間	9①1～ 9①4 記述 問題 1	《講義内容》 ・ I C F の視点に基づく生活支援、我流介護の排除等、理論に基づく介護と法的根拠に基づく介護について学習します。 《添削課題出題ポイント》 ・ 「介護」が理論的にどのような変遷をたどってきたのか、「介護」が法的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解します。
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4 時間	0 時間	4 時間	9②5～ 9②13	《添削課題出題ポイント》 ・ 学習と記憶に関する基礎的な知識を理解します。 ・ 感情と意欲に関する基礎的な知識を理解します。 ・ 自己概念と生きがい、老化や障害の受容に関する基礎的な知識を理解します。
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4 時間	0 時間	4 時間	9③13～ 9③22	《添削課題出題ポイント》 ・ 生命の維持・恒常のしくみを理解します。 ・ 骨や関節など、からだの動きのメカニズムを理解します。 ・ 神経の種類と、そのはたらきを理解します。 ・ 眼や耳、心臓をはじめとするからだの器官のはたらきを理解します。
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	3 時間	3 時間	0 時間	—	《講義内容》 ・ 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援について学習します。 《演習内容》 ・ 家事援助に関した生活支援：（１）介護保険制度における家事援助[身体介護と生活援助を一体的にとらえる視点、自立に向かう気持ちを支える、家事援助を通じたかかわり方のポイント]（２）家事援助の技術[掃除、洗濯、衣類の整理、衣類の補修、買い物、調理] ・ 2 名 1 組になり、ともに行う家事援助が利用者の自立支援につながり、利用者の主体性を引き出し、日々の暮らしに潤いがもてるようになる支援のあり方考えながら、ロールプレイを行います。

	⑤快適な居住環境整備と介護	3 時間	1.5 時間	1.5 時間	9⑤21～ 9⑤24	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 快適な居住環境に関する基礎知識について学習します。 ・ 高齢者や障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法を理解します。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者・障害者特有の住環境整備 [バリアフリーデザインとユニバーサル、人との交流, 地域とのつながり、住宅メニューと住宅政策、住宅内事故、避難経路の確保と防災設備、地域の環境づくりとまちづくりの視点] について 5 名×8 グループになり、グループでの討論を行います。 <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して快適に生活するために必要な環境の整備とは何かについて学びます。 ・ 住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について学びます。 ・ 高齢者や障害のある人が生活するなかで、住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点を学びます。
	⑥整容に関連したところとからのしくみと自立に向けた介護	6 時間	6 時間	0 時間		<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 整容に関する基礎知識、整容の支援技術について学習します。 ・ 身体状況に合わせた衣服の選択や着脱、身じたく、整容行動、洗面の意義や効果について学習します。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 整容の支援技術：(1)洗髪 (2)整髪 (3)化粧 (4)ひげそり (5)爪切り (6)衣服の着脱 (7)安楽で心地よい衣服の着脱介助の実際[事前の留意点、着脱介助の方法と留意点、着脱介助後の留意点、障害に応じた衣服着脱の介助] ・ 2 名 1 組になり、安楽で心地よい衣服の着脱の介助を行います。

	⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	6 時間	0 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動や移乗に関する基礎知識、さまざまな移動や移乗に関する用具とその活用方法、利用者や介助者にとって負担の少ない移動や移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援について学習します。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな移動・移乗に関する道具とその活用方法：（１）杖 （２）歩行器 （３）車いす[車いす介助時の留意点、車いすの種類] （４）スライディングシート ・２名１組になり、上記の道具を活用して移動・移乗の介助を行います。 ・移動を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法：（１）歩行[つたい歩き、杖歩行] （２）移乗[一部介助] （３）体位変換[全介助の場合] （４）ベッド上での水平移動の介助[全介助の場合] （５）ベッド上での上方移動の介助[全介助の場合] （６）ベッドからの起き上がりの介助[全介助の場合] （７）ベッドから車いすの移乗介助[全介助の場合] （８）車いすから便座への移乗介助[全介助の場合] ・移動と社会参加の留意点と支援：（１）心身機能の低下を防ぎ、生きる意欲を引き出す支援 （２）外出介助のためのアセスメント （３）視覚障害者への歩行介助
	⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	6 時間	0 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事や口腔ケアに関する基礎知識、食事環境の整備や食事に関連した用具や食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援について学習します。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具や食器の活用方法 ・２名１組になり、片麻痺を想定して自身で持参した弁当などの食事の介助を行います。 ・食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法：（１）食事介護の留意点と支援方法[事前のかかわり方、食事前のかかわり方、食事中のかかわり方、食後のかかわり方] （２）臥床状態での片麻痺利用者の介助 （３）視覚障害者の介助 （４）認知症の利用者の介助 ・口腔ケア：（１）口腔ケアの方法と留意点 （２）義歯の洗浄と保管

	⑨入浴、清潔保持に関連した ところとからだのしくみと 自立に向けた 介護	6 時間	6 時間	0 時間		<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 入浴や清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について学習します。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 入浴用品と整容用具の活用方法：（１）福祉用具を活用した入浴の介助 （２）歩行・洗体自立レベル （３）座位がとれる場合 （４）座位がとれない場合 入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法：（１）入浴を阻害するところの要因 （２）入浴を阻害するからだの要因 （３）安全で心地よい入浴介助の基本的な留意点 （４）身体の清潔介護[シャワー浴、清拭、足浴、手浴、洗髪、細部の清潔、陰部洗浄] ２名１組になり、ベッド上での洗髪、座位での手浴・足浴の清潔介護を行います。
	⑩排泄に関連したところと からだのしくみと自立に向けた 介護	6 時間	6 時間	0 時間		<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽やかな排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について学習します。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 排泄環境整備と排泄用具の活用方法：（１）排泄環境 （２）排泄に使用する用具[ポータブルトイレ、便器、おむつ] ２名１組になり、ベッド上でおむつ交換の介助を行います。 排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法：（１）排泄のアセスメント[排泄行動のプロセス、排泄介助の留意点] （２）安全で快適な排泄介助の実際[トイレでの排泄介助、ポータブルトイレにおける排泄介助、便器・尿器での排泄介助、おむつ交換の介助]

	⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4 時間	4 時間	0 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について学習します。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 睡眠環境と用具の活用方法：（１）安眠ケアの基本的留意点 （２）安眠への支援の実際[本人の満足感を重視する、入眠環境を整える、入眠への準備] 睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法：（１）不眠とその特徴 （２）睡眠を阻害する要因 （３）ところとからだのしくみからみた安眠のための介助の工夫[足浴や入浴、温かい飲み物、音楽、マッサージ、褥瘡予防] ５名×８グループになり、次の事例に基づく討議を行います。【事例：介護老人保健施設に入所して２週間が経過して、ここ数日よく眠れていない方への対応】（略） ５名×８グループになりベッド８台に分かれ、腰痛を予防するためにボディメカニクスを意識して、負担のかからないからだの使い方を習得するとともに、ベッド上に人がいない場合やベッド上に人がいる場合において、敷きシーツの交換を一人で行うベッドメイキング手順を習得します。
	⑫死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	3 時間	3 時間	0 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援について学習します。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> “終末期から死までの身体機能の変化について、状況に合わせた対応”、“死に直面したときの人の心理状況について、ところの変化の受け止め方”について５名×８グループになり、グループでの討論を行います。
生活支援技術演習	⑬介護過程の基礎的理解			2 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護過程の目的と意義、展開について学習します。 介護過程におけるチームアプローチの重要性について学習します。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ５名×８グループになり、次の事例の介護過程とチームケアにおける介護職の役割について討議を行うとともに、介護計画の立案を行います。【事例：夫と２人で暮らしているＡさん（脳梗塞の後遺症のため片麻痺あり）】

	⑭ 総合生活支援 技術演習	12 時間	<p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢の3事例を用い、生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を行います。5名×8グループになり、全員が全事例の演習を行います。 <p>想定事例1</p> <p>食事（食卓の椅子に座っており、状態を観察し、食事の介助をします）、口腔ケア（食後に食卓から洗面所まで移動し、口腔の清潔の介助をします）</p> <p>想定事例2</p> <p>整容（外出準備のため椅子に座っており、上着の着用と身だしなみの介助をします）、移動（T字杖を使って3動作歩行の介助をし、ベンチに腰かけるまでの介助をします）</p> <p>想定事例3</p> <p>移乗・排泄（トイレに行くため、ベッドから車いす、車いすから便座へ移乗し排泄の介助をします）</p> <p>※本科目の⑥～⑪の内容においては、⑭総合生活支援技術演習で選択する高齢の3事例と同じような事例を共通して用い、その支援技術を適用する考え方の理解と技術の習得を目指します。</p> <p>※本科目の⑥～⑪の内容における各技術の演習および⑭総合生活支援技術演習においても、一連の演習を通じて技術度合いの評価を行います。</p> <p>※総合生活支援技術演習計画書（別添様式5）を参照</p>
実習		6 時間	<p>《実習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護事業所において、サービスを提供するホームヘルパーに同行し、身体介護と生活援助の実習を実施します。 <p>※施設・居住型への実習は実施しません。</p>
	合計	75	
10 振り返り（4 時間）			
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	① 振り返り	1 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことについて研修全体を振り返ります。 ・根拠に基づく介護についての要点を確認します。
	② 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1.5 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような訪問介護事業所における実例を体験します。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コープケアサポートセンターの指定訪問介護事業所のホームヘルパー定例会に参加します。実際に働く訪問介護員からの話を基に討論へ参加します。訪問介護の業務をイメージできるようにします。
		1.5 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修終了後における継続的な研修について、訪問介護事業所における実例を講義にて案内します。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に学ぶべきことの実例挙げてグループで討議し発表します。
	合計	4	
	全カリキュラム合計時間	130 時間	

修了評価

●修了評価の方法、評価者、再履修等の基準

(1)技術演習における習得度評価を実施します。「こころとからだのしくみと生活支援技術」の次の項目について、各演習時間内で担当講師と補助講師が技術習得度の評価を行います。チェックリストによりA～Dの4区分で評価を行い、AおよびBの者を一定レベルに達している者としてします。

- ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
- ⑭総合生活支援技術演習

(評価区分)

- A：基本的な介護(介助)が的確にできる
- B：基本的な介護(介助)が概ねできる
- C：技術が不十分
- D：まったくできない

(2)全科目の修了時に、1時間の筆記試験による修了評価を実施します。次の評価基準によりC以上で評価基準を満たした者として認定します。

A=90点以上、B=80～89点、C=70～79点、D=70点未満

(3)通学のカリキュラムをすべて出席し、上記(1)および(2)において認定基準を超えている受講者に対し、修了証明書を発行します。

(評価試験で基準以下の時の取り扱い)

補習の上、必要に応じて補講等を行い、再試験を実施します。

補講 1,000円+税/1項目、再試験 1,000円+税/1回

実習施設

- 協力実習機関の名称・住所等☆
- 協力実習機関の介護保険事業の概要☆
- 協力実習機関の実習担当者名
- 実習プログラム内容、プログラムの特色
- 実習中の指導体制・内容(振り返り、実習指導等)
- 協力実習機関における延べ人数

実習内容 【訪問介護実習のみ実施】 延べ40名		訪問介護に同行し、訪問介護の現場の業務を体験します。6時間の実習のうち、身体介護3時間・生活援助3時間を目安に、このすべての時間において同行するホームヘルパーの指導・指示を受け、現場での実習に取り組みます。実習後、振り返りノートに記入をし、提出します。訪問介護事業の実習を行うことで、在宅サービスの現状を理解します。			
整理番号	運営主体 (法人名)	事業所名	担当者	所在地	介護保険事業
1	生活協同組合 ユーコープ	コープケアサポート センター青葉	細田	横浜市青葉区荏田西 2-14-3 ハーモス荏田 2階	訪問介護、居宅介護支援、 通所介護、福祉用具
2	生活協同組合 ユーコープ	コープケアサポート センター港南	多賀名	横浜市港南区上大岡西 2-2-10 MK 第2ビル 501号室	訪問介護、居宅介護支援
3	生活協同組合 ユーコープ	コープケアサポート センター港北	増田	横浜市港北区新横浜 3-13-6 新横浜葉山第3ビル 601号室	訪問介護、居宅介護支援
4	生活協同組合 ユーコープ	コープケアサポート センター戸塚	小野寺	横浜市戸塚区戸塚町 157 フタバビル 202号室	訪問介護、居宅介護支援
5	生活協同組合 ユーコープ	コープケアサポート センター旭	今井	横浜市旭区鶴ヶ峰 1-25-9 嶋田ビル 2階	訪問介護、居宅介護支援
6	生活協同組合 ユーコープ	コープケアサポート センター相模原	小堀	相模原市南区相模大野 7-11-2 リプロ相模大野 2階	訪問介護、居宅介護支援
7	生活協同組合 ユーコープ	コープケアサポート センター都筑	細田	横浜市都筑区牛久保 2-19-1	訪問介護、居宅介護支援、 通所介護

講師情報

●名前

●略歴、現職、資格

名前	略歴	現職	資格
安田好子	コープかながわ福祉事業部 介護支援専門員	コープケアサポートセンター港南 福祉従事者	介護支援専門員
原田政江	コープかながわ福祉事業部 訪問介護員	ユーコープ福祉事業部 介護支援専門員	介護支援専門員 介護福祉士
小野寺勇	コープかながわ福祉事業部 訪問介護員	コープケアサポートセンター戸塚 介護支援専門員	介護支援専門員 介護福祉士
福田彩子	訪問介護員、ユーコープ福祉事業 部 介護支援専門員		介護支援専門員 介護福祉士
鈴木忠	コープかながわ福祉事業部 訪問介護員(障害福祉サービス)	ユーコープ福祉事業部 部長	社会福祉士 精神保健福祉士
利根川都子	訪問介護事業所 訪問介護員・コーディネーター	福祉系専門学校 非常勤講師	看護師 保健師
弓野綾	病院 医師	クリニック 医師	医師
小林根	社会福祉法人 施設 所長	福祉系専門学校 非常勤講師	介護福祉士 社会福祉士
丸山タエ子	訪問介護事業所 訪問介護員	介護支援事業所 介護支援職	介護福祉士 社会福祉士
阿部良子	医療法人 病院看護部介護職	介護職	介護福祉士
片寄和明	コープケアサポートセンター青葉 通所介護職員	ユーコープ福祉事業部 事業推進課課長	介護福祉士
岸睦雄	コープケアサポートセンター青葉 通所介護職員	ユーコープ福祉事業部 業務支援課	介護福祉士

実績情報

●過去の研修実施回数

●過去の研修延べ参加人数

◎コープかながわ時の研修事業修了者数：合計 2053 名

- ・ホームヘルパー 3 級課程 1996～2000 年 7 期回開催：284 名
- ・ホームヘルパー 2 級課程 1997～2012 年 37 期回開催：1546 名
(2000 年から資格名変更：訪問介護員養成研修 2 級課程)
- ・訪問介護員養成研修 1 級課程 2003～2004 年 4 期回開催：80 名
- ・介護職員基礎研修課程 2006～2012 年 7 期回開催：143 名

連絡先等

●申し込み・資料請求先

〒225-0014

神奈川県横浜市青葉区荏田西 2-14-3 ハーモス荏田 2 階
生活協同組合ユーコープ 福祉事業部 介護職員初任者研修担当
電話：045-912-5323 (月～土 9:00～17:30)

FAX：045-912-6340

●事業所の苦情連絡先

生活協同組合ユーコープ 福祉事業部
電話：045-912-5323 (月～土 9:00～17:30)

●法人の苦情連絡先

もしもしコープ
電話：0120-473-002

受付時間：10 時～17 時 (月曜日～金曜日)